

Ouzi-standard

かがやけ おうじっこ

—授業の基礎・基本—



Since2015.2

明石市立王子小学校

か 活発な発言で、確かな理解

簡単な発問には、全員が手を挙げられるクラスづくりをしましょう。

○間違いを許容する雰囲気づくり

・「正しい」「間違いだけ」に話題を焦点化せず、その論理に共感してみましよう。

・間違いの論理を知り、どのような手立てを講じるかを考えること（誤答分析）が、全員理解につながります。

○子どもの心をつかむ教材の工夫やあっと言わせる教材提示の仕方

○教師の意図的な失敗

・先生が困る、わざと間違ふことで子どもが活躍する場を作る。

誤答から学ぶという姿勢を大切にしましょう。

が 学力アップは**全員参加**で、楽しく
「わかる・できる」

全員参加とは、クラス全員が考え表現することです。

○授業は流れることが重要ではなく、止めることが大切です。授業中の子どもの理解度を確認しながらすすめてみましょう。

○一人一人の理解を確認するにはアウトプットすることが必要です。少数が発表して終わるのではなく、ペア対話や書く活動などを行い全員が表現できるようにしましょう。

○学習環境や学級づくりは、授業での全員参加の基盤となります。過ごしやすい環境、失敗を恐れず話せるクラスづくりを心がけましょう。

**スタートから全員が参加できるよう2分前行動、
1分前着席を定着させましょう。**

や やりたいことは多くても、

しっかり絞ってシンプルに（焦点化）

教えるべきことをしっかり絞って、授業の計画を立てましょう。

○1時間に1つずつを原則に指導計画を考えましょう。

（**国語**読みの学習用語）

○内容が絞れていると、子どもが学ぶべきことをつかみやすくなります。また、教師も形成的評価がしやすく個々の学習状況を捉えやすくなります。

○教えることが絞れていると、教師の心にもゆとりが生まれ、子どもの多様な考えを生かしながら授業を組み立て進めることができます。

け 計画的に机間巡視で、

一人一人に考えを持たせよう

机間巡視で、クラス全員の学習状況を把握しましょう。

○学習に集中し、課題を理解しているかを把握して、一人一人が課題に対して考えを持てるように支援しましょう。

○指名・練り合いのプランニングをしたり、個々の学習状況を把握したりするため、計画的に机間巡視しましょう。

○個々の子どもの学習状況を把握し、できるだけ多くの子どもに声をかけるようにしましょう。

お 落ち着いたクラスは、環境づくりから

○教室が整理整頓され、決められたものがある状態がキープされていると学習環境は格段にその機能を高めます。

○物が機能的、かつ、整然と置かれているような状況は、不思議とその雰囲気落ち着いたものにします。

環境づくりチェック表

環境づくり委員会

朝の読書	子ども	静かに読書ができているか。
学習環境	子ども	正しい姿勢で学習する。
	子ども	話し方について、話型をもとに表現することができるか。
	子ども	「声のものさし」を意識することができるか。
	子ども	教師や友だちの話を静かに聞こうとしているか。
	教師	教室に読みの学習用語を掲示し、活用できているか。
教室環境	教師	掲示物は背面や側面に掲示してあるか。
	教師	教師用木の棚(テレビ下)にカーテンをし、すっきりさせているか。
	子ども	子どもの机の中の整理はできているか。
	教師	児童の特性に応じた座席配置ができているか。
	教師	一日の学習の見通しを持たせるような配慮ができているか。
	教師	学級文庫、後ろのロッカーは整頓できているか。
	教師	タイルがはがれていないか。
教室以外	教師	学年ごとの掲示板に、子どもの学習を知らせる掲示ができているか。
	子ども	靴箱に靴がそろえて入っているか。
	教師	廊下に物を置きすぎているか。
	教師	プレイルーム、多目的室は整理できているか。

- ・一か月に一回程度振り返ってみましょう。
- ・子どもたちにも、できているか時々確認して声をかけましょう。

う うまい授業には**しかけ**がある

○教科書を教えるのではなく、教えるべき内容（指導要領）とクラスの子どもたちの実態をしっかりとらえることで、全員が楽しく・分かる・できる授業を作ることができます。また、評価も大切です。A評価 B評価など指導内容の評価規準を明確にしておきましょう。

○授業の導入は、10のしかけで学力差や障害の有無にかかわらず、全ての子どもがやりたくなる課題を。

○授業の中盤は、しかけでゆさぶり、ハイタレントな子どもも含めて、全ての子どもが満足する学習内容に。

○授業の終盤は、授業をまとめ・振り返り、全ての子どもが学習内容を理解する。

○授業で教えたい内容に合わせて、焦点化・視覚化・共有化・しかけの使い方を考えましょう。

じ 授業の基本は

めあて と ふり返り

○授業づくりは、ゴール（ねらいに即した子どもの姿）から考え、その姿を子どもの視点から表現したものがめあてです。

○めあては、何がわかればよいのかがわかる具体的な表現にすると子どもの評価も容易に行えます。

○めあては、学習意欲を刺激する魅力的な言葉を考えましょう。

○まとめはめあての答えです。教師がまとめをして終わるだけでなく、できるようになったことを子ども自身がふり返ることが大切です。

つ つながる発言は、 **聞く** ことから

○あたたかいクラスは、お互いの意見を聞き合うことができます。しっかり聞ける子どもを育てましょう。

○聞くことで相手の立場や意図をくみ取り、自分の発言に生かすことができるようになります。

こ 子どもも使わないことは、忘れます。

だから、スパイラル

○環境・発問・課題・家庭学習等、工夫して大切なことは
繰り返し学ぶことができるようにしましょう。

○大切な言葉は、子どもが目にするように、教
室掲示を工夫しましょう。

○前の学年で学んだことも、授業の導入で意図的に振り返
り、思い出させるようにしましょう。

○家庭学習、宿題の出し方も漢字ドリル・音読・計算ドリ
ル等と一緒に、各教科の学んだことを復習できるように工
夫しましょう。

授業づくり編

- ・ 教材研究
- ・ 発問
- ・ 話し合い
- ・ 板書
- ・ ノート
- ・ 表情
- ・ 学習の基礎基本
- ・ 家庭学習のすすめ